

### Ⅲ. 診療科活動状況

2023年4月～2024年3月

# 内科

## 1. 医師体制

役職名等	氏名
内科部長、救急・総合内科科長	守谷 能和
副院長	福庭 勲
副院長	小野 未来代
内科診療部長	辻 忠男
内科診療部長、糖尿病科科長	村上 哲雄
救急・総合内科部長、副院長	後藤 慶太郎
循環器科科長	金子 史
呼吸器内科科長	原澤 慶次
透析科科長、内科副部長	肥田 徹
技術部長	市川 篤
医員	久志本 舞衣子
	下川 郡明
	松村 綾
	白藤 拓也
	開原 英範
	山本 茂輝
内科専攻医	富山 桃子
	瀧田 郁洋
	章 浩博
	天笠 諒
	青砥 航介
総合内科専攻医	揚野 佳太
おおみや診療所・所長	山田 晃務

※他科と重複している場合があります

## 2. 初期研修医

2022年卒 (8名)	新井 朋代、今泉 瑠々花、 植谷 新、大島 圭介、 小田 陽子、加藤 颯都、 上戸鎖 勇悟、吉留 真生
2023年卒 (7名)	飯野 哲瑠、北島 奏愛、 谷垣 親禾文、仲谷 美穂 橋本 大輝、武藤 寛亨 薬 英昭

## 3. 概要、特徴、特色

- (1) 地域医療の最前線で、いかなる患者様にも対応できる総合力を持つ内科でありたいと考えて診療を行っています。
- (2) 初期研修医は2つの内科病棟（C5病棟、東4病棟）のいずれかに所属して研修を開始します。内科は、初期研修医に基本的な診療スタイルを身につけさせる役

割を担っています。

- (3) 2020年8月から、内科C5病棟を新型コロナ専用病棟として患者様の受入を行いました。2023年5月から5類になるに伴い、内科病棟に戻りました。

## 4. 実績

- (1) 外来科別患者数 単位：人

	実患者数	患者のべ数
急患内科	15,211	24,906
循環器内科	1,814	7,516
消化器内科	3,294	8,654
糖尿病内科	1,943	10,075
呼吸器内科	1,251	5,821
腎臓内科（透析）	808	3,433
甲状腺内科	392	1,136
血液内科	274	1,214
神経内科	455	1,809
総合内科	354	564
救急	3,041	3,388

- (2) 入院医療

	C5病棟	東4病棟
病床数	50床	40床 HCU8床

## 5. 学術・研究、講演、研修会等の記録

- (1) 学術・研究等の発表（192頁参照）

演題名
下腿・陰部浮腫で受診し、悪性腹膜中皮腫と診断した1例 呼吸状態の悪化により死亡した高TG性重症急性膵炎の1例
デュロキセチン投与後急速に低Na血症を発症した1例 抗AQP4抗体陽性を示した全身性エリテマトーデスの1例 敗血症が疑われる高齢救急患者の予後予測因子についての検討
慢性腎臓病の急性増悪の精査で多発性骨髄腫と診断された1例
非典型的な神経症状を呈した溶血性尿毒症症候群の1例 自殺企図で持効型インスリン450単位を皮下注射し、低血糖が4日間遷延した2型糖尿病の1例
水痘・帯状疱疹ウイルスによる無菌性髄膜炎の5例

■診療実績（診断群分類 6 桁別、2023年退院患者）

※医科点数表 K コード

傷病 6 桁	傷病名	件数	年齢	在院 日数	救急 搬送	紹介 あり	手術 あり 症例 ※	診断 検査	計画的 繰り返 し入院	その 他の 加療	構成 比%	累積%
060100	小腸大腸の良性疾患（良性腫瘍を含む。）	349	69.2	2.0	0	175	335	6		343	10.5%	10.5%
060360	慢性膵炎（膵嚢胞を含む。）、自己免疫性膵炎、膵石症	222	62.4	8.3	7	164	197	15		207	6.7%	17.1%
060340	胆管（肝内外）結石、胆管炎	136	74.2	9.5	22	83	113	3		133	4.1%	21.2%
180030	その他の感染症（真菌を除く。）	131	77.3	14.1	61	47	1	2		129	3.9%	25.2%
110280	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全	130	73.8	12.7	10	103	101			130	3.9%	29.1%
050130	心不全	126	79.1	17.1	39	63	1			126	3.8%	32.8%
040080	肺炎等	121	78.2	14.6	51	49	3			121	3.6%	36.5%
110310	腎臓又は尿路の感染症	110	76.5	14.0	50	57	2			110	3.3%	39.8%
010060	脳梗塞	108	75.3	27.9	48	39	6			108	3.2%	43.0%
06007x	膵臓、脾臓の腫瘍	101	70.1	4.6	2	56	13	68	6	27	3.0%	46.1%
040081	誤嚥性肺炎	98	82.3	21.7	54	45	7			98	2.9%	49.0%
050050	狭心症、慢性虚血性心疾患	91	74.0	3.3	1	59	12	78		13	2.7%	51.7%
040110	間質性肺炎	76	78.2	19.8	20	39	2	4		72	2.3%	54.0%
10007x	2型糖尿病（糖尿病性ケトアシドーシスを除く。）	72	68.6	11.5	4	48				72	2.2%	56.2%
060020	胃の悪性腫瘍	67	78.1	8.2	3	34	44	4	2	61	2.0%	58.2%
060102	穿孔又は膿瘍を伴わない憩室性疾患	66	69.7	8.5	10	28	8	2		64	2.0%	60.2%
060130	食道、胃、十二指腸、他腸の炎症（その他良性疾患）	44	65.3	8.6	10	24	2			44	1.3%	61.5%
060300	肝硬変（胆汁性肝硬変を含む。）	42	66.0	17.1	15	22	12			42	1.3%	62.7%
050170	閉塞性動脈疾患	41	74.4	9.6	1	30	20	15		26	1.2%	64.0%
080010	膿皮症	41	76.3	15.4	14	23	3			41	1.2%	65.2%
040040	肺の悪性腫瘍	38	75.5	12.1	5	28	1	12	9	17	1.1%	66.3%
030250	睡眠時無呼吸	37	58.2	2.0	0	28		32		5	1.1%	67.5%
060140	胃十二指腸潰瘍、胃憩室症、幽門狭窄（穿孔を伴わないもの）	34	75.1	10.4	10	16	9			34	1.0%	68.5%
060190	虚血性腸炎	34	69.0	7.7	6	17				34	1.0%	69.5%
110290	急性腎不全	34	73.5	10.8	19	12				34	1.0%	70.5%
030400	前庭機能障害	32	70.9	7.0	27	7				32	1.0%	71.5%
060050	肝・肝内胆管の悪性腫瘍（続発性を含む。）	32	78.8	9.9	5	23	16	3		29	1.0%	72.4%
040100	喘息	30	66.5	12.5	7	15				30	0.9%	73.3%
060350	急性膵炎、被包化壊死	30	61.3	13.0	4	20	11			30	0.9%	74.2%
060380	ウイルス性腸炎	30	54.2	6.4	6	12				30	0.9%	75.1%
180010	敗血症	29	79.0	29.4	21	14	3			29	0.9%	76.0%
050210	徐脈性不整脈	24	79.8	9.5	1	13	22		1	23	0.7%	76.7%
180040	手術・処置等の合併症	24	78.4	13.2	12	7	3			24	0.7%	77.5%
040150	肺・縦隔の感染、膿瘍形成	22	72.2	30.7	8	10	3			22	0.7%	78.1%
100393	その他の体液・電解質・酸塩基平衡障害	22	70.2	8.9	12	12				22	0.7%	78.8%
060035	結腸（虫垂を含む。）の悪性腫瘍	20	77.8	9.6	2	14	11	1	1	18	0.6%	79.4%
160610	四肢筋腱損傷	20	71.7	11.1	15	6				20	0.6%	80.0%
	その他の傷病	667			230	335	76	25	9	633	20.0%	100.0%
	計	3,331			812	1,777	1,037	270	28	3,033	100.0%	

# 循環器内科

## 1. 医師体制

役職名等	氏名
副院長	福庭 勲
科長	金子 史
秩父生協病院・院長	山田 昌樹
非常勤	6名

## 2. 概要、特徴、特色

当院では高血圧症・虚血性心疾患（狭心症など）・不整脈・心不全・弁膜症などを中心に循環器疾患全般にわたって診療を行っています。

外来では心電図検査・胸部レントゲン検査・心臓超音波検査・ホルター心電図検査・トレッドミル運動負荷心電図検査、心臓 CT 検査などを行い、心臓病の早期発見に努めています。

狭心症などの虚血性心疾患が疑われる場合は、診断の精度を高めるために、心臓カテーテル検査（通常2泊3日入院）を行います。ほとんどの症例で体に負担が少ない手首からの心臓カテーテル検査を行っています。また、入院せずに外来で精密検査を行うことのできるように、心臓冠動脈 CT 検査を導入しています。

心臓カテーテル検査などで冠動脈の狭窄が発見された場合は心臓カテーテル治療（経皮的冠動脈ステント留置術など）を行っています。バルーンを用いて血管の狭窄を拡張したり、金属でできた金網（ステント）を植え込む治療を行います。心臓カテーテル検査や治療では、クリニカルパスを用いて、安全な検査・治療に努めています。

不整脈では、ペースメーカー手術も行っています。退院後はペースメーカー外来（予約制）で定期的に術後の経過をみせていただいています。

心臓病の予防も重要な分野として、医師・看護師・薬剤師・栄養士・リハビリなどを含めて取り組んでいます。

また、心臓病を悪化させる原因として喫煙や睡眠時無呼吸症候群などがあり、禁煙外来や息いき外来（睡眠時無呼吸症候群）とも連携をとって、診療を行っています。

## 3. 診療実績

### (1) 外来診療

- ①主たる疾患：高血圧・心不全・虚血性心疾患・不整脈・弁膜症・心筋症・閉塞性動脈硬化症など

②手術適応症例は心臓外科外来（非常勤）にて診療

③ペースメーカー外来

### (2) 検査・治療

検査及び処置名	件数
経皮的冠動脈ステント留置術	11
ペースメーカー移植術 経静脈電極の場合	10
ペースメーカー交換術	16
四肢の血管拡張術・血栓除去術	21
心臓カテーテル検査	127
UCG（経胸壁心エコー）	2,901
経食道心エコー	21
ホルター心電図	374
トレッドミル	24
冠動脈 CT 撮影	89

■診療実績（診断群分類 6 桁別、2023年退院患者）

※医科点数表 K コード

傷病 6 桁	傷病名	件数	年齢	在院 日数	救急 搬送	紹介 あり	手術あり 症例※	診断 検査	計画的 繰り返し 入院	その他 の加療
050030	急性心筋梗塞（続発性合併症を含む。）、再 発性心筋梗塞	6	85.8	7.2	5	2				6
050050	狭心症、慢性虚血性心疾患	91	74.0	3.3	1	59	12	78		13
050070	頻脈性不整脈	7	84.3	8.6	5	0				7
050080	弁膜症（連合弁膜症を含む。)	7	72.7	7.6	0	3	1	6		1
050090	心内膜炎	3	76.7	31.0	2	3				3
050130	心不全	126	79.1	17.1	39	63	1			126
050161	大動脈解離	4	86.5	4.3	4	1				4
050162	破裂性大動脈瘤	2	78.0	11.0	2	2				2
050170	閉塞性動脈疾患	41	74.4	9.6	1	30	20	15		26
050180	静脈・リンパ管疾患	1	95.0	9.0	0	0				1
050190	肺塞栓症	1	73.0	20.0	1	0				1
050200	循環器疾患（その他）	5	75.2	8.8	3	2	1			5
050210	徐脈性不整脈	24	79.8	9.5	1	13	22		1	23
	計	318	79.6	11.3	64	178	57	99	1	218

# 呼吸器内科

## 1. 医師体制

役職名等	氏名
科長	原澤 慶次
技術部長	市川 篤
医員	松村 綾
熊谷生協病院・副院長	宮岡 啓介
非常勤	2名

※他科と重複している場合があります

## 2. 概要、特徴、特色

地域の中核病院たるべく呼吸器科領域を幅広く診療しています。一般的な肺炎診療から、非結核性抗酸菌症や排菌のない結核症などといった感染性疾患や、慢性閉塞性肺疾患・気管支喘息といった気道疾患、間質性肺疾患、肺がんなどに対する診療を外来・病棟で展開しています。外科とも連携し、肺がん手術のみならず、気胸や膿胸などといった炎症性疾患、胸腔鏡下肺生検なども行っています。

また、当院呼吸器内科の特色の一つはコメディカルスタッフとの協力です。慢性閉塞性肺疾患患者が中心ですが、リハビリテーション部門とも連携して外来呼吸リハビリテーションを行っています。

日本呼吸器学会認定施設

## 3. 診療実績

### (1) 外来診療

実患者数	のべ患者数
1,251人	5,821人

### (2) 病棟診療

常勤医師2名で担当しています。肺炎や慢性閉塞性肺疾患・気管支喘息などの気道疾患、間質性肺炎、肺癌などを扱っています。

### (3) 検査・手術等

処置検査	件数
気管切開術	11
新規在宅人工呼吸管理	4
気管支鏡検査	53
在宅酸素療法新規導入	81
胸腔穿刺	95
局麻下胸腔鏡	6

(4) 呼吸器医療チーム (183頁参照)

## 4. 次年度に向けて

引き続き年1回、地域住民に向けて慢性閉塞性肺疾患あるいは気管支喘息について講習会を開催し、積極的に地域住民の健康活動を啓蒙していきます。

■診療実績（診断群分類 6 桁別、2023年退院患者）

※医科点数表 K コード

傷病 6 桁	傷病名	件数	年齢	在院 日数	救急 搬送	紹介 あり	手術あり 症例※	診断 検査	計画的 繰り返し 入院	その他 の加療
040010	縦隔悪性腫瘍、縦隔・胸膜の悪性腫瘍	1	86.0	1.0	1	0				1
040040	肺の悪性腫瘍	38	75.5	12.1	5	28	1	12	9	17
040050	胸壁腫瘍、胸膜腫瘍	3	79.0	14.0	0	1				3
040070	インフルエンザ、ウイルス性肺炎	3	39.3	3.0	1	2				3
040080	肺炎等	121	78.2	14.6	51	49	3			121
040081	誤嚥性肺炎	98	82.3	21.7	54	45	7			98
040090	急性気管支炎、急性細気管支炎、下気道感 染症（その他）	8	80.4	13.5	4	4				8
040100	喘息	30	66.5	12.5	7	15				30
040110	間質性肺炎	76	78.2	19.8	20	39	2	4		72
040120	慢性閉塞性肺疾患	18	76.7	21.4	9	8	1			18
040130	呼吸不全（その他）	2	81.5	11.5	2	0				2
040140	気道出血（その他）	1	62.0	9.0	0	1				1
040150	肺・縦隔の感染、膿瘍形成	22	72.2	30.7	8	10	3			22
040170	抗酸菌関連疾患（肺結核以外）	8	78.4	18.0	2	4	1	2		6
040180	気管支狭窄など気管通過障害	1	74.0	16.0	0	1				1
040190	胸水、胸膜の疾患（その他）	9	82.3	20.4	3	5	2			9
040200	気胸	10	53.8	22.6	3	7	1			10
040220	横隔膜腫瘍・横隔膜疾患（新生児を含む。）	3	86.3	7.7	1	2				3
040240	肺循環疾患	1	53.0	4.0	1	0				1
040250	急性呼吸窮<促>迫症候群	1	88.0	9.0	0	1				1
04026x	肺高血圧性疾患	3	83.7	20.7	2	2				3
040310	その他の呼吸器の障害	3	64.7	10.3	1	1				3
	計	460	73.7	14.3	175	225	21	18	9	433

# 消化器内科

## 1. 医師体制

役職名等	氏名
埼玉協同病院長	増田 剛
内科診療部長	高石 光雄
副院長	小野 未来代
ふれあい生協病院長、内科主任部長、消化器内科科長	忍 哲也
内科部長、救急・総合内科科長	守谷 能和
内科診療部長	辻 忠男
医員	大石 克巳
	開原 英範
	山本 茂輝

※他科と重複している場合があります

## 2. 概要、特徴、特色

- (1) 地域に密着した急性期病院の消化器内科としての役割を果たすべく診療に当たっています。
- (2) 1次2次を中心とした救急車搬入台数は年間3,700件に及び、消化管出血や黄疸・胆管炎の患者様も数多く来院されるため、救急医療における消化器内科医の役割は大きいです。
- (3) 上下部消化管内視鏡検査、内視鏡的胆膵管造影および関連処置、超音波内視鏡検査、治療内視鏡等を行っています。  
従来の大腸ポリープに対する内視鏡的粘膜切除術(EMR)に加えて上部下部早期癌に対する粘膜下層剥離術(ESD)の件数も増加しています。緊急胆道ドレナージも積極的に行っています。膵石治療の経験豊富な辻忠男医師の指導の下、慢性膵炎の診療実績は日本屈指となっております。
- (4) 消化器専門外来では炎症性腸疾患、慢性肝炎・肝硬変、肝細胞癌などの慢性期管理を行っています。B型・C型慢性肝炎への経口抗ウイルス治療の件数や、炎症性腸疾患へのバイオ製剤投与実績も増加しています。
- (5) 医局が同一である強みを活かして外科と緊密に連携を取り、必要な場合はスムーズに手術まで繋げています。
- (6) 癌化学療法を受ける患者様も年々増加しており、キヤンサーボードを行って方針を検討しています。

## 3. 診療実績

### (1) 検査・処置数

検査・処置	件数
上部消化管内視鏡検査	7,688
上部(悪性)ESD	44
上部(悪性)EMR	4
上部(良性)EMR	2
下部消化管内視鏡検査	1,642
下部(悪性)ESD	14
下部(悪性・良性)EMR	375
超音波内視鏡検査(上部・下部)	87
PEG交換(PTEG含む)	33
PEG造設	18
PTEG新規	1
血管塞栓術(腹腔内血管等)	3
TAE[肝動脈塞栓療法]	19
EIS[内視鏡的静脈瘤硬化療法]	3
EVL[内視鏡的静脈瘤結紮術]	11
内視鏡的消化管止血術(小腸結腸以外)	14
小腸結腸内視鏡的止血術	9
食道ステント留置術	2
胃・十二指腸ステント留置術	3
下部消化管ステント留置術	0
消化管拡張術	14
肝生検・その他の生検	10
穿刺(膿瘍・胆のう)	3
膵石ESWL(一連)	570
膵・胆道系検査・処置(ERCP)	670

肝炎経口治療	件数
B型慢性肝炎(核酸アナログ治療)	12
C型慢性肝炎(経口治療)	0

### (2) 消化器内科医療チーム (183頁参照)



## ■診療実績（診断群分類 6 桁別、2023年退院患者）

※医科点数表 K コード

傷病 6 桁	傷病名	件数	年齢	在院 日数	救急 搬送	紹介 あり	手術あり 症例※	診断 検査	計画的 繰り返し 入院	その他 の加療
060010	食道の悪性腫瘍（頸部を含む。）	5	67.8	10.6	2	2	3	1		4
060020	胃の悪性腫瘍	67	78.1	8.2	3	34	44	4	2	61
060030	小腸の悪性腫瘍、腹膜の悪性腫瘍	6	71.8	22.7	0	5	4		1	5
060035	結腸（虫垂を含む。）の悪性腫瘍	20	77.8	9.6	2	14	11	1	1	18
060040	直腸肛門（直腸 S 状部から肛門）の悪性腫瘍	17	74.4	9.4	2	9	10		1	16
060050	肝・肝内胆管の悪性腫瘍（続発性を含む。）	32	78.8	9.9	5	23	16	3		29
060060	胆嚢、肝外胆管の悪性腫瘍	12	83.1	17.1	3	4	7	2		10
06007x	膵臓、脾臓の腫瘍	101	70.1	4.6	2	56	13	68	6	27
060090	胃の良性腫瘍	4	64.8	4.5	0	2	2	2		2
060100	小腸大腸の良性疾患（良性腫瘍を含む。）	349	69.2	2.0	0	175	335	6		343
060102	穿孔又は膿瘍を伴わない憩室性疾患	66	69.7	8.5	10	28	8	2		64
060130	食道、胃、十二指腸、他腸の炎症（その他 良性疾患）	44	65.3	8.6	10	24	2			44
060140	胃十二指腸潰瘍、胃憩室症、幽門狭窄（穿 孔を伴わないもの）	34	75.1	10.4	10	16	9			34
060180	クローン病等	4	75.3	12.3	0	2	1			4
060185	潰瘍性大腸炎	10	49.6	13.4	0	5				10
060190	虚血性腸炎	34	69.0	7.7	6	17				34
060210	ヘルニアの記載のない腸閉塞	17	67.3	6.8	5	8	1			17
060230	肛門周囲膿瘍	1	59.0	16.0	1	1				1
060241	痔核	2	44.0	5.0	0	2				2
060270	劇症肝炎、急性肝不全、急性肝炎	9	55.8	8.9	1	5				9
060280	アルコール性肝障害	7	62.7	8.9	1	5				7
060290	慢性肝炎（慢性 C 型肝炎を除く。）	6	66.5	16.5	0	5		2		4
060300	肝硬変（胆汁性肝硬変を含む。）	42	66.0	17.1	15	22	12			42
060310	肝膿瘍（細菌性・寄生虫性疾患を含む。）	7	76.6	30.0	1	6	6			7
060320	肝嚢胞	1	55.0	2.0	0	0				1
060330	胆嚢疾患（胆嚢結石など）	3	53.3	6.3	0	0				3
060335	胆嚢炎等	7	74.7	14.4	2	5	5			7
060340	胆管（肝内外）結石、胆管炎	136	74.2	9.5	22	83	113	3		133
060350	急性膵炎、被包化壊死	30	61.3	13.0	4	20	11			30
060360	慢性膵炎（膵嚢胞を含む。）、自己免疫性膵炎、 膵石症	222	62.4	8.3	7	164	197	15		207
060370	腹膜炎、腹腔内膿瘍（女性器臓器を除く。）	7	49.9	11.6	4	2				7
060380	ウイルス性腸炎	30	54.2	6.4	6	12				30
060390	細菌性腸炎	13	49.7	7.8	2	7				13
060391	偽膜性腸炎	5	82.6	34.8	2	3	1			5
060570	その他の消化管の障害	3	78.7	6.3	0	3				3
計		1,353	66.7	11.1	128	769	811	109	11	1,233

# 糖尿病内科

## 1. 医師体制

役職名等	氏名
内科診療部長、科長	村上 哲雄
医長	島村 裕子
医員	高橋 きよ子
	坂下 杏奈
	川合 汐里
	肥田 徹
	糸川 真里
非常勤	1名

※他科と重複する場合があります

糖尿病学会認定研修指導医 3名

糖尿病学会専門医 5名

院内 CDEJ (Certified Diabetes Educator of Japan) 8名

合併症管理料算定者 4名

日本内科学会総合内科専門医・指導医 1名

日本腎臓学会腎臓専門医 1名

日本透析学会透析専門医 1名

## 2. 概要、特徴、特色

糖尿病領域を中心とした専門的診療を行っています。

1型糖尿病、2型糖尿病、妊娠糖尿病を含め、各種病態患者の診療を行い、健康寿命の延伸を治療目標にしています。糖尿病を併発している外科領域の患者の血糖コントロールについても、連携をしています。他の医療機関との連携もとって、紹介患者の診療にあたっています。

患者会活動も行っており、糖尿病教室、糖尿病協会発行の「さかえ」を読む会を行っており、コメディカルスタッフと共同して患者教育にも努めています。

## 3. 診療実績

(1) 外来診療 (2023年延べ患者数10,075人/1ヶ月平均839人)

①糖尿病外来を予約外来として行っており、初診外来で他の医療機関からの紹介患者、および院内からの依頼患者の診療にあたっています。また、妊娠糖尿病患者、糖尿病合併妊娠の患者の管理も行っています。

②糖尿病外来教室として“はじめくん外来”を行っており、診察・栄養指導・看護師面談も並行して行い、合併症の評価もしながら指導しています。今年度の

参加者は12名で換気を十分にし、講義時間を短縮する感染対策を行いました。

③インスリン導入は外来で行うことが多く、糖尿病外来でのインスリン使用患者数は当該期間(2023年4～6月)で722人(うち75歳以上265人)でした。必要時、インスリン注射の手技の再チェックを行っています。

④GLP-1注射薬(ビテュリオン、ビクトーザ、リキスミア、バイエッタ、トルリシティ、オゼンピック)も導入しています。

⑤CSII(持続皮下インスリン注入療法)も行っています。

⑥CGMS(持続血糖モニタリングシステム)も血糖日内変動を詳細に把握できる点で優れており、入院、外来で施行しています。

⑦フットケアも実施しており、足の管理、足病変の早期発見に努めています。件数は20件で、予約枠は6枠/週となっています。

⑧糖尿病透析予防指導管理を行い、糖尿病腎症進展の防止に努めています。2012年10月より開始して、診察、看護指導、栄養指導を包括的にを行い、2023年では37名指導しました。腎症3期の指導ができるスタッフが3名増加しました。

⑨糖尿病患者会、日本糖尿病協会発行の「さかえ」を読む会は再開しています。

### (2) 病棟診療

①糖尿病コントロール入院にて食事療法、薬物療法、運動療法を含めて教育も行い、93名がコントロールを行いました。

### (3) 糖尿病医療チーム (181頁参照)

## 4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

### (1) 教育

#### ①糖尿病カンファレンス (毎週1回)

医師、コメディカルスタッフで行っており、2023年の症例数は24人。職員参加数は120名。患者の日常生活環境、問題点等について検討し、指導のポイントについて討論を行い、患者のQOL向上に努めています。

②糖尿病医療チーム会議 (毎月1回) (181頁参照)  
新しい情報の検討、診療業務の改善、向上に努めています。

③第66回 日本糖尿病学会年次学術集会に参加

### (2) 研究

①糖尿病合併症進展因子についての検討

- ②糖尿病腎症の進展予防に対する、新しい糖尿病治療薬の効果についての検討

(3) 学会・研究等の (182頁参照)

減量治療における MHO と MUO の代謝恒常性維持と破綻の比較検討

MHO と MUO の代謝恒常性維持と破綻の比較検討

## 腎臓内科(透析)

### 1. 医師体制

役職名等	氏名
科長、内科副部長	肥田 徹
糖尿病内科医長	島村 裕子
非常勤医	5名

※他科と重複する場合があります

### 2. 概要、特徴、特色

- (1) 腎臓内科では、主に慢性腎臓病の診断、保存期治療を実施しています。
- (2) 腎臓内科、及び透析科では、急性期治療として緊急透析、持続緩徐式血液浄化、免疫吸着療法等を実施し救命治療に従事しています。また他院に通院している透析患者の急性期治療中の維持透析、また周術期の透析管理を実施しています。
- (3) 当院では、末期腎不全患者の透析導入施設としての役割があり、安全に透析導入し、維持透析クリニックへ紹介しています。

### 3. 診療実績

#### (1) 患者数

		実人数	のべ人数
腎臓内科	外来	808	3,433
透析	外来		8,589
	入院		1,723

#### (2) 手術・透析等

内シャント造設件数		32件
経皮的シャント拡張術		114件
維持透析導入患者数		30件
維持透析件数		10,312件
急性血液浄化	人工腎臓	129件
	持続緩徐式血液浄化	6件
	エンドトキシン吸着	4件
	血球成分除去療法：	12件
	腹水濾過濃縮再静注法	0件
	単純血漿交換	0件
	その他の血液浄化法	43件

■診療実績 (診断群分類 6 桁別、2023年退院患者)

※医科点数表 K コード

傷病 6 桁	傷病名	件数	年齢	在院 日数	救急 搬送	紹介 あり	手術あ り症例 ※	診断 検査	計画的 繰り返し 入院	その他 の加療
11001x	腎腫瘍	2	76.0	6.0	0	1				2
110050	後腹膜疾患	1	73.0	17.0	0	0				1
110060	腎盂・尿管の悪性腫瘍	1	77.0	13.0	0	0				1
110070	膀胱腫瘍	1	93.0	10.0	1	0				1
110080	前立腺の悪性腫瘍	2	78.5	39.5	1	2				2
11012x	上部尿路疾患	14	80.1	8.7	4	8	3			14
11013x	下部尿路疾患	4	76.0	10.5	2	2				4
11022x	男性生殖器疾患	7	59.0	7.7	1	4				7
110260	ネフローゼ症候群	4	62.3	10.5	1	3				4
110280	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全	130	73.8	12.7	10	103	101			130
110290	急性腎不全	34	73.5	10.8	19	12				34
110310	腎臓又は尿路の感染症	110	76.5	14.0	50	57	2			110
110430	腎動脈塞栓症	1	75.0	12.0	0	0				1
	計	311	74.9	13.3	89	192	106	0	0	311

## 救急・総合内科

### 1. 医師体制

役職名等	氏名
部長	後藤 慶太郎
内科副部長、科長	守谷 能和
初期研修医	16名

※他科と重複している場合があります

### 2. 診療科の特徴

埼玉協同病院は「二次救急指定病院」として入院や手術を必要とする重症の患者さんの救急医療を24時間体制で担っています。ERには、川口市や近隣のエリアから救急車で多くの患者さんが運ばれてきます。現在は、1日10台前後、年間約4,000台前後の救急搬送を受け入れています。また、HCUや院内急変にも救急科が対応しています。

### 3. 救急搬入

救急搬入患者数	3,755人
(要請数)	8,911人
(受入率)	42.1%
(入院数)	1,135人

## 在宅医療

### 1. 医師体制

役職名等	氏名
リハビリテーション科診療部長	稲村 充則
ふれあい生協病院院長	忍 哲也
非常勤	有田 圭介

※他科と重複している場合があります

### 2. 診療科の特徴

埼玉協同病院は開設以来40年以上、民医連の歴史を受け継ぎ、在宅医療を行ってきました。介護保険が始まった2000年頃は当院の在宅患者数は240人程度となっています。厚生労働省が医療機能分化のために2006年に在宅療養支援診療所、2008年に在宅療養支援病院(200床以下)の制度を作りました。当時、この地域で、往診/訪問診療を定期的に行う医療機関は皆無に近い状態でした。診療報酬上の制度が出来てもなかなか増えませんでした。

この移行期に、病院としては在宅医療部門をそのまま残し、それまでの患者さんに加え、経済的・社会的に困難な方や最期を住み慣れた場所で過ごしたいという方への訪問を継続することにしました。全国をみわたしても、この規模で院内に在宅医療部門をもつところは少ないと思われま(佐久総合病院の地域ケア科)。

当院としては、次第に増えてきた地域の在宅療養支援診療所・支援病院と連携し、多くの患者さんを紹介し、在宅療養を行う患者・家族への支援を行っています。当院の患者数は当然ながら年々減少しています。

がん患者さんについては当院の緩和ケア病棟の役割(症状コントロール、在宅療養の支援)を発揮しながら、総合サポートセンターを中心に、他院に紹介した患者さんを地域の中で支援しています。

在宅療養の患者構成は多数の疾患が背景にあります。現在は大きくがん、非がんに分け対応します。非がんの中には脳血管障害、認知症、呼吸器/循環器疾患、神経難病などが含まれ、人生の最終段階の支援と緩和ケアを行います。また、急性増悪時には病院のベッドを利用し、緊急対応を行い、リセットして在宅療養を継続支援します。

「簡単に看取りと言わないで」:「看取り」に近いということで新たに導入になる方がいます。看取りという言葉が一人歩きします。しかし、在宅療養の中で回復し元気に何年か過ごされる方がいます。自宅という環境の中

では、きちんと対応することで不思議な力が発揮されるのです。

### 3. 活動と診療実績

#### (1) 在宅管理数

①在宅管理数 117人/年

②新規在宅管理数 64人/年

#### (2) 在宅医療と看取り

		入院死亡	在宅死亡	外来・他院
死亡37人	がん 13人	9人	4人	5人
	非がん19人	4人	15人	

### 4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

特になし

### 5. 次年度に向けて

地域包括ケア病床を新設したふれあい生協病院の開設後は、在宅療養支援病院として急性期、地域包括ケア、老人保健施設、訪問看護、居宅と地域を総合的に支える活動の中で在宅医療・訪問診療は質量ともに大きく発展していくものと考えます。

## リハビリテーション科

### 1. 医師体制

役職名等	氏名
診療部長	稲村 充則
部長	野口 周一

※他科と重複している場合があります

## 被ばく相談外来

### 1. 医師体制

役職名等	氏名
精神科部長	雪田 慎二

※他科と重複する場合があります

### 2. 概要、特徴、特色

被ばく相談外来は、月1回、完全予約制で行っています。広島・長崎の原爆被爆者、福島第1原発事故被害者、原発労働者などの健康相談を実施しています。

また、福島第1原発事故に関連して、福島県双葉町の住民を対象に甲状腺エコー検査を行っています。

## 禁煙外来

### 1. 医師体制

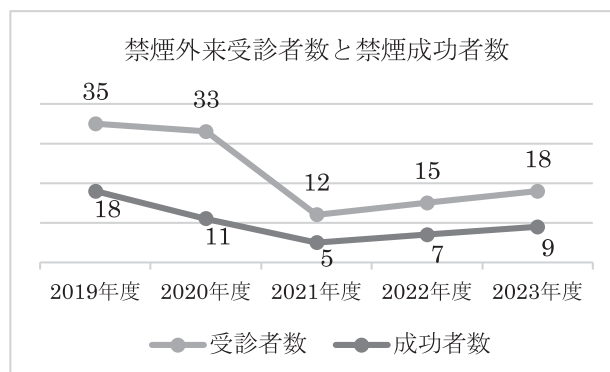
役職名等	氏名
健康増進センター長	小池 昭夫
内科技術部長	市川 篤

※他科と重複している場合があります

### 2. 概要、特徴、特色

タバコを吸い続けてやめられない状態は、ニコチン依存症と診断され、治療が必要です。本人の能動喫煙以外に、周囲の受動喫煙による健康障害（発がん）の防止が注目されています。当院では、毎週木曜日の午後、完全予約制で禁煙外来を行っています。喫煙歴をきちんと把握したうえで、喫煙補助薬の処方、治療の経過を見守っています。禁煙スケジュールは3ヶ月以内に5回受診します。また、2006年4月から一定の条件を満たせば、健康保険等を使って禁煙治療を受けることができるようになりました。

### 3. 実績



# 小児科

## 1. 医師体制

役職名等	氏名
診療部長	和泉 桂子
部長	荒熊 智宏
副部長、(熊谷生協病院副院長兼務)	平澤 薫
医長	藤田 泰幸
医長	金子 芳
非常勤	黒須友梨香、藤本耕司、 谷川祥陽、齋藤陽子、中村明夫、 脇田傑、岩本洋一

## 2. 診療科の特徴

当科は、川口市にある病床を有する数少ない小児科として、外来・入院診療の他、乳児健診・予防接種、様々な活動を行っています。あわせて川口市の小児夜間救急診療事業の2次医療機関として金曜日を担当しています。

COVID19が2023年5月に5類へ変更となりましたが、引き続き感染対策に留意しながら、各種医療活動を継続しております。病院全体のリニューアルおよび新病院開設に伴い、2023年8月に外来はふれあい生協病院へ移転しました。2024年5月から入院も新たな病棟へ移転し、新しい環境での診療を開始したので不慣れな点もあり、皆様へ御迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、今後もこの地域の小児医療を支えていきたいと考えております。

## 3. 活動と診療実績

### (1) 外来医療

午前一般外来を行い、午後専門外来、乳児健診・予防注射を行っています。8月からは隣接するふれあい生協病院で外来診療を行っています。新たな外来でも以前と同じく隔離室を使用しながら感染予防に配慮して診療を行っています。夜間や救急車は引き続き埼玉協同病院で診療しています。COVID19の外来での診療は行っていますが、小児の入院病床はなく、入院が必要な際は近隣の医療機関へご紹介をしています。土曜日外来は従来電話予約で対応しておりましたが、Web予約へ移行しました。

専門外来は、アレルギー・発達(神経)・心理・腎臓・循環器・内分泌/生活習慣病があります。住み慣れた地

域でできる限りの専門医療を提供すべく各医師が研鑽をつみながら、診療を継続しています。一部外来は外部の専門医のお力をおかりして実施しております。

乳児健診は、計測・診察の他、多職種(看護師、保育士、管理栄養士、歯科衛生士等)の協力を得て、月齢に応じて育児支援として様々な講義指導を行ったり、個別に相談指導を行ったりしています。予防接種は、接種困難な基礎疾患のある児(けいれん発作、アレルギーなど)にも対応しております。当科では1回に4本までの同時接種を行っております。

小児科外来患者数	年間	のべ	17,056人
小児科紹介患者数	年間		568人
川口市小児夜間救急	毎週金曜日	年間	634人
乳幼児健診	1ヶ月	294人、	3-4ヶ月 165人、
	6-7ヶ月	135人、	9-10ヶ月 149人、
	1歳	105人、	1歳半 135人
合計	年間	983人(延べ人数)、	
予防接種	年間	2,069人(延べ人数)	

### (2) 入院医療

COVID19流行以前と比べると入院数は少ないものの、下気道感染、喘息、川崎病や尿路感染症といった小児のcommon diseaseを中心に入院診療を行っています。血液や循環器疾患等、当科では対応できない疾患につきましては専門病院へご紹介しています。病棟には保育士もおり、子供への関わりはもとより、保護者への子育てに関する悩みや困りごとについて、相談にのってもらっています。新生児に関しては分娩数も減少しており、新生児室への入院児も少ないですが、多呼吸・黄疸・低血糖など軽症の入院が一定数あります。重症例に関しては、小児では近隣の高次医療機関やPICU、新生児ではNICUへご紹介させていただいております。

小児科入院患者数	年間	269人
産科分娩数	年間	296人
(再掲 早期新生児疾患入院数	年間	105人)
(NICU 搬送症例	年間	3人)

### (3) その他の活動

小児の安全やよりよい環境を守るために月1回小児虐待対策チーム会議を行い、被虐待児のみでなく、事故で受診された児の状態についてもチームで把握、必要時行政への連絡を行うようにしています(小児虐待対策チームのページをご参照ください)。



子育て支援の一環として、子育て支援チームを主催で学童期・思春期子育て教室を行いました（子育て支援チームのページをご参照ください）。

地域の小児の健康を守る活動として当科所属の医師

が、学校医（小学校3校）、園医（川口市内4園、市外3園）、川口市の3歳児健診（集団）を年8回、南部児童相談所の嘱託医として活動しています。

■診療実績（診断群分類6桁別、2023年退院患者）

\*医科点数表Kコード

傷病6桁	傷病名	件数	年齢	在院日数	救急搬送	紹介あり	手術あり症例*	診断検査	その他の加療
010230	てんかん	4	9.5	2.3	4	0	0		4
030240	扁桃周囲膿瘍、急性扁桃炎、急性咽頭喉頭炎	1	0.0	3.0	0	0	0		1
030270	上気道炎	11	2.5	3.7	2	3	0		11
030440	慢性化膿性中耳炎・中耳真珠腫	1	1.0	4.0	0	1	0		1
040070	インフルエンザ、ウイルス性肺炎	10	0.9	4.8	0	5	0		10
040080	肺炎等	6	1.5	5.0	0	1	0		6
040090	急性気管支炎、急性細気管支炎、下気道感染症（その他）	33	0.8	4.5	1	14	0		33
040100	喘息	20	3.1	4.3	2	5	0		20
060150	虫垂炎	2	13.5	5.0	0	1	1		2
060210	ヘルニアの記載のない腸閉塞	2	1.5	3.5	0	1	0		2
060380	ウィルス性腸炎	19	4.1	3.5	5	7	0		19
060390	細菌性腸炎	1	6.0	6.0	0	0	0		1
060391	偽膜性腸炎	1	2.0	7.0	0	1	0		1
070520	リンパ節、リンパ管の疾患	1	3.0	6.0	0	1	0		1
080010	膿皮症	3	0.0	5.0	0	2	0		3
080270	食物アレルギー	13	3.8	1.6	1	1	0	8	5
100210	低血糖症	14	2.4	2.8	1	9	0		14
100260	下垂体機能亢進症	2	3.0	2.0	0	0	0	2	
100380	体液量減少症	1	9.0	3.0	0	1	0		1
100393	その他の体液・電解質・酸塩基平衡障害	1	15.0	3.0	0	1	0		1
110310	腎臓または尿路の感染症	16	0.2	7.1	0	9	0		16
130111	アレルギー性紫斑病	2	4.5	3.5	0	0	0		2
150040	熱性けいれん	2	2.5	4.0	2	0	0		2
150070	川崎病	23	2.1	10.3	0	15	0		23
161020	体温異常	2	14.0	2.5	1	0	0		2
161070	薬物中毒（その他の中毒）	1	1.0	2.0	0	0	0		1
170060	その他の精神及び行動の障害	1	14.0	5.0	0	0	0		1
180010	敗血症	1	0.0	16.0	0	1	0		1
180030	その他の感染症（真菌を除く）	2	6.5	9.0	0	1	0		2
計		232	2.4	5.1	19	80	1	10	186

# 外科

## 1. 医師体制

役職名等	氏名
外科部長	栗原 唯生
外科副部長	佐野 貴之
技術部長	井合 哲
	市川 辰夫
	長 潔
	井上 豪
	小野 聡
	浅沼 晃三
乳腺外科科長	金子 しおり
病棟医長	重吉 到
医員	入江 直子
外科専攻医	鈴木 佳那子
	花岡 伸之介
非常勤	1名

※他科との重複する場合があります

## 2. 概要、特徴、特色

当院外科は、地域住民の方々の健康と暮らしを支えることを基本理念とし、住み慣れた地域で安心して外科医療を受けて頂けるよう、日々の診療に取り組んでいます。多職種が連携したチーム医療により、患者さんの生活背景まで配慮した医療を提供できるのが当院の最大の強みです

この地域は人口に比して中～大規模病院が少なく、急性腹症など緊急性の高い外科疾患に対する治療も我々の重要な責務です。地域住民の方々が安心して暮らしていけるよう、緊急手術への対応も今後一層強化していく所存です。

(1) 消化器外科では主に胃、大腸、肝胆膵の良性および悪性疾患に対する手術を行っています。腹腔鏡下の低侵襲手術から進行がんに対する開腹下の拡大手術まで幅広く対応しています。固形がんを治癒させるためには、多くの場合、外科治療が必要となります。早期および一部の進行癌に対しては、各臓器とも、腹腔鏡を用いた低侵襲手術を主に行っています。高度進行がんに対しては、腫瘍内科医師と協力しながら、抗がん剤治療などを組み合わせた集学的な治療により、外科治療の可能性を追求しています。胃癌治療においては、日本胃癌学会認定施設Bに認定されております。

胆石症に対する手術が多いのも当院の特徴です。当

院は消化器内科における胆膵内視鏡の実施件数が非常に多く、患者さんの病状や背景を考慮した迅速・柔軟な対応が可能です。単径ヘルニアに対しても腹腔鏡手術の導入を開始しました。

(2) 肺外科は、埼玉県立循環器呼吸器病センターから手術支援を受けながら治療を行っています

(3) 乳腺外科は、女性を中心とした他職種チームにより治療を行っています。

## 3. 外来患者数

実患者数	のべ患者数
3,409人	11,420人

## 4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1) 学会・研究会等の発表 (192頁参照)

演題名
DWIBS が診断の補助となった1例
直腸癌に併発した後腹膜神経鞘腫の2例
膵・十二指腸浸潤を伴う結腸癌に対し、結腸右半切除、脾頭十二指腸切除を施行した1例
腹壁癒痕ヘルニア修復後メッシュ感染を来した2例
虫垂転移を生じた膵体部癌の1例
胃結腸間膜リンパ節転移、肝転移を伴う肝彎曲部結腸癌に対して、腹腔鏡下手術を施行した一例
噴門側胃切除後通過障害の対応に難渋した2例

埼玉協同病院外科 手術実績	2020		2021		2022		2023	
	手術件数	うち鏡視下	手術件数	うち鏡視下	手術件数	うち鏡視下	手術件数	うち鏡視下
入院手術総数（手術室施行）	662	303	709	369	710	312	710	318
主な手術								
肺切除	25	20	34	32	14	10	11	10
悪性								
部分切除	13	13	10	10	3	3	4	4
葉切除	6	1	7	5	7	3	2	1
良性								
部分切除	1	1	3	3			2	2
気胸	5	5	9	9	4	4	3	3
その他の胸部手術	4	3	5	5			7	5
悪性			1	1			1	1
良性	4	3	4	4			6	4
食道切除								
悪性								
良性								
胃切除	27	4	28	16	31	12	29	11
悪性								
胃全摘	8		3		6		3	
幽門側切除	15	3	16	10	15	6	22	10
その他	4	1	9	6	10	6	3	1
良性								
幽門側切除							1	
その他			2	1				
大腸切除	83	33	98	46	95	48	85	53
悪性								
結腸切除	54	23	62	30	73	41	51	36
直腸切除	21	10	22	14	12	5	20	11
良性								
結腸切除	8		13	1	9	2	14	6
直腸切除			1	1	1			
小腸切除	11	8	9	3	15	2	18	3
悪性	2		2	1	4	2	2	
良性	9	8	7	2	11		16	3
その他の手術								
鼠径部ヘルニア	101		117		124		124	5
虫垂炎手術	77	75	106	103	72	71	65	63
消化管穿孔および腹膜炎手術	11	3	15	5	13	1	15	1
肝切除	23	4	20	7	16	3	12	4
悪性								
部分切除および外側区域切除	6	1	14	7	7	3	5	4
上記以外の切除	14	1	6		8		7	
良性								
部分切除および外側区域切除	2	2			1			
その他の切除	1							
膵切除(胃切除に伴うものを除く)	15	3	5		9		13	4
悪性								
膵頭十二指腸切除	9		3		8		2	
膵体尾部切除	3	1	1				5	4
その他					1		5	
良性								
膵頭十二指腸切除							1	
膵体尾部切除	2	2	1					
膵腫瘍摘出	1							
胆嚢摘出(胃切除に伴うものを除く)	162	159	149	148	157	155	144	136
乳腺	49		54		58		70	
悪性								
乳房切除	16		23		28		31	
乳房部分切除	30		28		29		34	
良性								
腫瘍摘出	3		3		1		5	

# 乳腺外科

## 1. 医師体制

役職名等	氏名
科長	金子 しおり

※他科と重複する場合があります

## 2. 概要、特徴、特色

(1) 日本において女性のがん罹患率で乳がんが1位となっており、9人に一人が乳がん罹患しています(2018年国立がん研究センター、がん情報サービスより)。年齢別の罹患数をみると30歳代後半から増加を始め、40代後半から70代後半まで高い罹患率となっています。2018年の統計では60代後半から70代前半にピーク

があります。乳がんの治療は手術だけではなく、薬物療法、放射線療法と複合的に行っていくため、通院頻度や金銭面での負担がかかってきます。そこで自宅近くでも安心して治療が受けられるよう診療を行っています。

(2) 乳腺疾患に必要な設備を整え、乳腺疾患の精査から治療まで行っています。乳がん患者様の精神面のフォローや社会的背景を考慮しながら診療を行えるように、メディカルスタッフとの連携を図っています。必要に応じて乳がん精通した看護師やがん化学療法看護認定看護師、緩和ケア認定看護師等との面談を提案します。また、当院に放射線治療施設がないため、放射線治療が必要な症例に対しては近医への紹介を行っています。

(4) 乳腺科診療チーム会議 (176頁参照)

## 3. 診療実績

### (1) 検査件数

検査	件数
乳房エコー	1,790
乳房超音波ガイド下生検 (CNB)	135
ST マンモトーム	10
乳房 MRI	57
マンモグラフィー	1,076

### ■診療実績 (診断群分類 6 桁別、2023年退院患者)

※医科点数表 K コード

傷病 6 桁	傷病名	件数	年齢	在院 日数	救急 搬送	紹介 あり	手術あり 症例※	計画的 繰り返し 入院	その他 の加療
090010	乳房の悪性腫瘍	94	61.4	5.0	0	58	62	27	67
090020	乳房の良性腫瘍	3	46.3	3.0	0	2	3	0	3
	計	97	53.8	4.0	0	60	65	27	70

### (3) 手術件数

手術名	件数
乳腺悪性腫瘍手術 (乳房切除術 (腋窩鎖骨下部郭清を伴うもの)・胸筋切除を併施しないもの)	8
乳腺悪性腫瘍手術 (乳房切除術 (腋窩部郭清を伴わないもの))	25
乳腺悪性腫瘍手術 (乳房部分切除術 (腋窩部郭清を伴うもの (内視鏡下によるものを含む。)))	1
乳腺悪性腫瘍手術 (乳房部分切除術 (腋窩部郭清を伴わないもの))	31
乳腺悪性腫瘍手術 (単純乳房切除術 (乳腺全摘術))	0
乳腺腫瘍摘出術 (長径 5 センチメートル以上)	2
乳腺腫瘍摘出術 (長径 5 センチメートル未満)	1
計	68

# 整形外科

## 1. 医師体制

役職名等	氏名
主任部長	仁平 高太郎
部長	桑沢 綾乃
病棟医長	遠藤 大輔
整形外科医長	丸木 千陽美
医員	松崎 貴成
専攻医	西野 直人

## 2. 診療実績

### (1) 手術件数

手術	件数
人工関節置換術（股）	506
人工関節再置換術（股）	11
人工関節置換術（膝）	553
人工関節再置換術（膝）	1
人工関節置換術（肩）	18
人工関節置換術（肘）	1
人工関節置換術（指）（手）	4
人工関節拔去術（股）	4
人工関節拔去術（膝）	1
人工骨頭挿入術（股）	21
人工骨頭挿入術（肘）	1
骨移植術（軟骨移植術を含む）	509
股関節内転筋切離術	12
骨折観血的手術	167
関節内骨折観血的手術	15
関節鏡下関節内骨折観血的手術	4
観血的整復固定術	12
骨内異物除去術（挿入物を含む）	61
脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術	69
顕微鏡下腰部脊柱管拡大減圧術	5
黄色靭帯骨化症手術	4
椎間板摘出術（後方摘出術）	7
化膿性又は結核性関節炎搔爬術	17
関節鏡下関節滑膜切除術	5
関節形成手術	11
神経移行術	10
神経剥離術（その他のもの）	6
アキレス腱断裂手術	4
関節鏡下肩腱板断裂手術（簡単なもの）	17
腱鞘切開術（関節鏡下によるものを含む。）	5
腱剥離術（関節鏡下によるものを含む。）	5

腱縫合術	2
靭帯断裂形成手術	6
四肢切断術	5
創傷処理	19
デブリードマン	5
皮膚切開術	6
その他の手術	79
総計	2,188

## 3. 学術・研究、講演、研修会等の記録

### (1) 学会・研究会等の発表（192頁参照）

演題名
CORI を用いた Surface matchong method-UKA の設置精度の検討
CORI を用いた Surface matchong method-UKA での全下肢アライメントの変化
CORI-UKA における脛骨トレイの設置表示角度の検討

■診療実績 (診断群分類 6 桁別、2023年退院患者)

※医科点数表 K コード

傷病 6 桁	傷病名	件数	年齢	在院 日数	救急 搬送	紹介 あり	手術あり 症例※	診断 検査	計画的 繰り返し 入院	その他 の加療
07040x	股関節骨頭壊死、股関節症 (変形性を含む。)	399	66.7	20.3	2	216	397			399
070230	膝関節症 (変形性を含む。)	342	73.2	23.9	2	162	339			342
160800	股関節・大腿近位の骨折	71	79.9	40.6	23	41	64		1	70
160760	前腕の骨折	60	58.9	3.1	2	47	60		3	57
070343	脊柱管狭窄 (脊椎症を含む。) 腰部骨盤、不安定椎	55	74.2	17.2	0	33	48	6		49
160850	足関節・足部の骨折・脱臼	30	44.7	10.4	1	25	29		8	22
160610	四肢筋腱損傷	27	57.6	6.2	0	14	27		1	26
160700	鎖骨・肩甲骨の骨折	25	50.2	3.2	0	19	25		7	18
070280	骨端症、骨軟骨障害・骨壊死、発育期の膝関節障害	24	73.0	15.1	0	13	24		2	22
160720	肩関節周辺の骨折・脱臼	24	67.8	12.5	3	15	23		1	23
160740	肘関節周辺の骨折・脱臼	18	49.2	4.3	1	15	18		1	17
160780	手関節周辺の骨折・脱臼	17	50.8	3.0	0	16	17		1	16
070341	脊柱管狭窄 (脊椎症を含む。) 頸部	16	75.2	20.3	0	10	14	1		15
070350	椎間板変性、ヘルニア	15	57.6	23.2	1	8	11	2		13
070160	上肢末梢神経麻痺	14	65.9	3.0	0	10	14			14
070050	肩関節炎、肩の障害 (その他)	13	75.2	17.3	0	9	13			13
071030	その他の筋骨格系・結合組織の疾患	13	79.9	39.8	4	7	10			13
180040	手術・処置等の合併症	13	67.0	82.1	0	8	13			13
070200	手関節症 (変形性を含む。)	12	69.5	3.9	0	6	12			12
160820	膝関節周辺の骨折・脱臼	12	57.3	13.7	2	9	11		1	11
070080	滑膜炎、腱鞘炎、軟骨などの炎症 (上肢)	11	49.5	9.6	0	3	9			11
07010x	化膿性関節炎 (下肢)	9	75.6	40.3	3	5	8			9
080010	膿皮症	9	64.7	25.0	3	5	5			9
050170	閉塞性動脈疾患	7	75.7	64.1	2	5	6			7
070610	骨折変形癒合、癒合不全などによる変形 (上肢)	7	60.9	6.1	0	6	7			7
07034x	脊柱管狭窄 (脊椎症を含む。)	6	69.2	52.2	0	5	6			6
160790	手関節周辺の開放骨折	6	50.8	10.3	0	4	6			6
160980	骨盤損傷	6	67.5	23.3	3	1	2			6
160590	四肢神経損傷	5	33.6	3.0	0	3	5			5
160835	下腿足関節周辺の骨折	5	54.6	38.8	1	4	5		1	4
160990	多部位外傷	5	55.0	36.0	1	5	5			5
160660	皮下軟部損傷・挫滅損傷、開放創	4	63.5	13.0	0	3	3			4
070060	手肘の関節炎	3	52.3	12.3	0	2	2			3
070085	滑膜炎、腱鞘炎、軟骨などの炎症 (上肢以外)	3	64.3	17.3	0	3	3			3
070600	骨折変形癒合、癒合不全などによる変形 (上肢以外)	3	63.3	79.3	0	2	3			3
160690	胸椎、腰椎以下骨折損傷 (胸・腰髄損傷を含む。)	3	74.3	82.7	1	2	2			3
	その他の傷病	34			8	23	23			34
	計	1,326	67.3	21.0	63	764	1,269	9	27	1,290

# 脳神経外科

## 1. 医師体制

役職名等	氏名
部長	石丸 純夫
非常勤	須田 喜久夫
	川口きゆうぼりリハビリテーション病院
	脳神経外科専門医・指導医
	脳卒中専門医・指導医
	井出 光信
	脳神経外科専門医

## 2. 概要、特徴、特色

外来診療のみですが、脳卒中救急に関する相談や、病棟での脳卒中・頭部外傷患者さんのコンサルテーションに対応しました。

脳卒中の症例は多く、救急や当直帯での問い合わせもコンスタントに増えてきています。南部 MC の連携病院として、また、日本脳卒中協会に「一次脳卒中センター」として登録されたこともあり、脳卒中救急はたくさん受けていただいています。

慢性硬膜下血腫の手術適応患者さんは、済生会川口総合病院などに転送させていただいておりますが、外来での保存的治療・経過観察例もあります。

ボトックス治療は、顔面けいれん・眼瞼けいれんに対して施行しています。

重度の片頭痛患者さんに、CGRP 抗体製剤の注射治療も行っています。

- ・日本脳卒中学会教育研修病院（2017年12月から）
- ・埼玉県急性期脳梗塞治療ネットワーク（SSN）、南部 MC の連携病院（2017年12月から）
- ・日本脳卒中協会の一次脳卒中センター（2019年12月から）

## 3. 外来診療実績

### (1) 外来診療

脳外科外来患者数	2,846人	
(うち紹介患者数)		
t-PA 施行例	0例	
血栓回収のための転送例	0例	
ボトックス治療施行件数	24件	
/SSN 依頼件数（*）	19件	
脳卒中	救急受入数	入院患者数
救急		
脳梗塞	49人	109人
脳出血	10人	30人
くも膜下出血	10人	13人
慢性硬膜下血腫		
外来・救急新患数	41人	

（\*）期間：2023年4月～2023年12月

	救急受入数	入院患者数
頭部外傷	36人	6人

頭痛	病院全体	脳神経外科
片頭痛	266人	70人
緊張型頭痛	96人	60人

CGRP 抗体製剤使用：13人

## 4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

### (1) 教育・研修

- ①毎週火曜日7時 救急症例検討会に参加
- ②毎週木曜日14時 南5病棟リハビリテーションカンファレンスに参加
- ③毎週月曜日16時 脳卒中急性期入院リハビリの検討会に参加
- ④9月～11月、研修医対象 金曜日7時15分、脳疾患画像のレクチャー 8回施行
- ⑤6月 内科専門外来の看護師対象「脳神経外科のトリアージ」のレクチャー
- ⑥2024/03/21 地域医療懇談会「当院の頭痛診療について」

# 産婦人科

## 1. 医師体制

役職名等	氏名
部長	市川清美
副部長	榎本明美
	芳賀厚子
医長	伊藤浄樹
(研修出向中)	春日みさき
専攻医 (研修出向中)	橋本弥生
(研修受け入れ)	窪田有希
	木原彩智
	朝倉美香
非常勤	竹内育代
	岡野滋行
	荻島樹里
	藪田直樹
	堀内 功
	高木耕一郎
	大森 恵
	三澤将大
	武津由理
	阪口百佳
	小澤利佳
	安東慶子
嘱託	神谷 稔

## 2. 概要、特徴、特色

東棟オープン・ふれあい生協病院開院にあたり産婦人科も東3病棟へ移転しました。病棟新装に伴い分娩数増加を期待したのですが減少に歯止めがかからない状態です(表1 2022年度315件)。地域全体の分娩数が減少傾向とはいえ、提供している妊娠・分娩管理のあり方がニーズとかみ合っていないことを率直に認めなければなりません。硬膜外麻酔などで陣痛を緩和する医療を取り入れるなど時代に合わせつつ、いままで大切にしてきた「女性が主体となった妊娠出産」「家族全体で赤ちゃんを迎え入れる」「地域が産み育てる」という原点に立ち返り当院でしか経験できない妊娠・分娩を創造していく節目にさしかかっています。そんな中でも社会的困難を抱えた患者様に正面から向き合うという民医連医療を実践し、地域機関と連携して4ヶ月半かけて児の受け入れ環境を調整し母の手元へお返しするという経験も積みました。精神疾患合併妊娠の地域での受け皿が乏しいことを実感しているので、精神科 小児科と連携しながら当院

で管理可能な症例(現在は単剤投与で状態が安定している患者様)に対してきめ細かく関わっていきたいと考えています。ハイリスク症例への早期介入と分娩数減少を反映して母体搬送も減少しました(表2)。出生前診断は未だ実態把握が困難となっていますが、今後全員に情報提供をしながら検査のあり方をともに考えて行く取り組みを始める予定です。

手術は217件(2022年度205件)でした。腹腔鏡手術を希望し他院へ紹介することも少なくないため、研修出向中の医師が戻ってくることを1日千秋の思いで待っている状態です。(表3)

月経随伴症状や更年期障害に対するホルモン治療は徐々に浸透しており低用量ピルの使用者は増加傾向です(2022年366件)。(表4)

子宮癌検診は検診事業がふれあい生協に移りましたが産婦人科外来で行った検診数と合わせた総数は6000件余りと横ばいでした。(表5) 進行癌を紹介した症例も29例あり、症状が長期間続いた後の受診と言うことも少なくありませんでした(表6)。地域の中でのがん教育も大切だと感じています。HPVワクチンは新たに48人(公費6キャッチアップ40自費2)の方に接種しました。

東京女子医科大学附属足立医療センター、自治医科大学さいたま医療センターと連携し当院の専攻医研修を受けていただき、また基幹施設からの専攻医研修を受け入れています。初期研修医のローテート研修(院内9人関連病院から3人)も行いました。

2026年春には病棟の隣に外来も移転し、女性外来として乳腺外科とともに一つのエリアで診療を行っていくこととなります。そのオープンに向け当院での女性医療が地域に支持されるものとなるよう、スタッフと知恵と力を合わせていきたいと思っています。

## 3. 診療実績

図表のみとします。



表1 分娩数と出産年齢及び合併症

年代別分娩数	2023年年度
19歳以下	7
20～24歳	36
25～29歳	91
30～34歳	93
35～39歳	53
40歳以上	19
計	299
帝王切開	73
合併症妊娠	
子宮筋腫	7
精神疾患	21
甲状腺疾患	11
高度肥満 (BMI ≥ 30)	68
糖尿病	2
GDM	30
HDP	12
縫縮術	5

表4 ホルモン療法患者数

低用量ピル	
トリキュラー	22
ルナベル・フリウエル	407
ヤーズフレックス	69
ドロエチ	73
計	529
エストラーナテープ	131
メノエイドコンビパッチ	47
ディナゲスト・ジェノゲスト	305
ミレーナ (子宮内避妊具)	59
GnRH	
リュープリン	75
ナサニール	3
レルミナ	64
ディビゲル	11
婦人科特定疾患治療管理	
器質性月経困難書	160

表2 母体搬送の週数および紹介先

週数	
～22週	1
23～27週	1
28～31週	
32～34週	2
35週以上	1
搬送先	
川口市立医療センター	4
さいたま市立病院	1
さいたま赤十字病院	1
西埼玉中央病院	1

表3 手術

入院・手術室施行 (帝王切開除く)	217
子宮頸部異形成・上皮内癌	68
子宮筋腫	43
骨盤臓器脱	33
卵巣腫瘍	27
(うち腹腔鏡)	4
子宮頸管縫縮術	10
異所性妊娠	5
子宮内膜増殖症	12
その他	19

表5 がん検診

	埼玉協同病院	ふれあい生協病院
子宮頸部	2,017	4,045
NILM	1,959	3,957
ASC-US	23	43
ASC-H	2	3
LSIL	25	30
HSIL	6	10
AGC	1	
AIS	1	
SCC		1
材料不適		1
子宮体部	1,281	3,282
陰性	1,253	3,230
疑陽性	5	10
陽性	1	2
材料不適	22	40

表6 悪性腫瘍紹介数

紹介先	例数
自治医科大学さいたま医療センター	10
国立がん研究センター中央病院	4
がん・感染症センター都立駒込病院	4
獨協医科大学埼玉医療センター	4
埼玉県立がんセンター	3
その他	4
悪性腫瘍	例数
子宮体癌	13
子宮頸癌	13
卵巣癌	3

#### 4. 教育・研修・研究活動

〈学会発表〉 下記

### 1-1. 学術・研究等の発表

#### ■2023年

氏名	演題名 (共同研究者名)	集会名 (開催●月●日～●月●日)	開催場所
須知慧子	妊娠中の COVID-19感染に関連した 羊水過少が疑われた 2 症例 (芳賀厚子 新真大 伊藤浄樹 榎本明美 市川清美)	第145回関東連合産科婦人科学会総 会 学術集会 6月17日	日本都市センター会館
新 真大	Achromobacter xylosoxdans による菌 血症を発症した切迫早産の 1 例 (芳賀厚子 須知慧子 伊藤浄樹 榎本明美 市川清美)	第102回埼玉産科婦人科学会・埼玉 県産婦人科医会 令和 5 年度前期学 術集会 7月1日	埼玉県県民健康センター
窪田有希	糖尿病合併患者が子宮腺筋症にガス 産生菌 (Anaerococcus tetradius) 感 染をきたし敗血症に至った一例 (芳賀厚子 朝倉美香 伊藤浄樹 榎本明美 市川清美)	第101回埼玉県産婦人科医会・埼玉 産科婦人科学会 令和 4 年度後期学 術集会 11月5日	埼玉県県民健康センター

### 2-1. 講演会活動等

氏名	講演名	主催 (公演日●月●日)	開催場所
芳賀厚子	女性と子どもの貧困・外国人の医療・ 出生前診断～産婦人科医療の現場から ～人権を守る国へ	ソーシャルワーク演習講義 6月30日	明星大学日野キャンパス
芳賀厚子	異次元の少子化対策 産婦人科医療の 現場から見えてくるもの	第48回和光母親大会 9月3日	和光市中央公民館
芳賀厚子	女性と子どもの貧困・外国人の医療・ 出生前診断～産婦人科医療の現場から ～人権を守る国へ	第60回草加母親大会 10月29日	草加市立勤労福祉会館

### 2-2. 著書・論文等

#### ■著書・論文

氏名	題名	掲載誌等
新 真大	当院における特別養子縁組制度利用妊婦の現状と課題	埼玉産科婦人科学会雑誌第53 巻1号2023年3月
川島 卓	von Willebrand 因子活性低値を呈する思春期の過多月経の一例	埼玉産科婦人科学会雑誌第53 巻2号2023年9月
新 真大	Achromobacter xylosoxdans による菌血症を発症した切迫早産の 1 例	埼玉産科婦人科学会雑誌第54 巻1号2024年3月
橋本弥生	子宮がん	けんこうと平和 No.374 2023 年7月

# 皮膚科

## 1. 医師体制

役職名等	氏名
部長	伊藤 理恵
医員	飯島 孝四郎
非常勤・専攻医	4名

## 2. 概要、特徴、特色

皮膚科には常勤医2名、帝京大学より専攻医1名、非常勤医3名が勤務しており、皮膚科としては県南最大規模の病院のひとつで、日本皮膚科学会認定の研修施設です。この6名で平日午前中と金曜日午後の一般診療を担当し、平日午後には手術や予約診療を行っています。

当科では通常の皮膚疾患をしっかりと診断し治療することを基本方針として診療をしています。診療疾患は多岐にわたるため、各種血液検査や病理検査に加えて、皮膚エコーやMRI、CTなどの画像診断を有効に使い、まず確定診断を正確にすることを目標としています。治療は通常の内服療法、外用療法のほか、手術療法や紫外線治療（中波紫外線）、アトピー性皮膚炎に対する生物製剤、ジャック阻害剤治療も取り入れ効果をあげています。

また、外来にはQスイッチアレキサンドライトレーザーがあり、健康保険診療としては太田母斑や異所性蒙古斑に、自費診療としては老人性色素斑に著効しています。

基本的に健康保険診療で治療していますが、いくつかの自費診療を取り入れており、患者様のQOL向上に有益と考えています。

## 3. 診療実績

### (1) 外来診療

平日午前中は3～4人体制で一般外来を行っています。平日午後は予約制で診療、手術、処置、美容関係の自費診療などを行っています。

2023年度の皮膚科延べ外来受診数は19,177人であり、月平均外来受診人数は約1,600人です。受診内容は湿疹アトピー性皮膚炎群、皮膚細菌感染症、真菌感染症、ウイルス性皮膚疾患、尋常性座瘡、自己免疫性皮膚疾患、熱傷、各種爪疾患、良性悪性皮膚腫瘍など多岐にわたっています。

### (2) 手術

毎週月曜日、水曜日、金曜日の午後に行っています。2023年度の手術件数は478件で、局所麻酔下での手術が

主体です。9割以上が日帰り外来手術ですが、入院手術も受けています。内容は表皮嚢腫、脂肪腫、母斑などの良性腫瘍切除術が多く、陥入爪根治術、皮膚悪性腫瘍切除術などが続きます。

### (3) 紫外線治療

当科には中波長紫外線治療器（全身型、ターゲット型）があり、尋常性乾癬、アトピー性皮膚炎、掌蹠膿疱症などに対して光線治療を行い良好な効果をあげています。

### (4) 生物製剤による治療（自費診療部門）

大部分は一般診療中に施行していますが、イオン導入とケミカルピーリングは木曜日と金曜日の午後に予約にて施行しています。

①アンチエイジング目的	レーザー治療	65件
	イオン導入	15件
	ケミカルピーリング	12件
②男性型脱毛症への内服治療		
③円形脱毛症などに対する局所免疫療法（SADBE治療）		
④陥入爪への超弾性ワイヤーによる治療		
⑤ピアスホール作成		

(2023年4月～2024年3月)

## 4. 学術・研究、講習、研修会等の記録

### (1) 教育・研修

水曜日の外来診療後に臨床カンファレンスを行っています。当院は皮膚科専門医の一般研修施設です。希望があれば初期研修医及び後期研修医の皮膚科研修も受け入れています。

### (2) 学会発表

- 1) タクロリムス軟膏の外用が奏功したIgG4関連皮膚疾患の1例（第122回日本皮膚科学会総会）
- 2) エアバックによる前腕熱傷の1例（第122回日本皮膚科学会総会）

### (3) 講演会活動

- 1) アトピー性皮膚炎診療について～埼玉協同病院における治療戦略～
- 2) 埼玉協同病院におけるアトピー性皮膚炎治療のとりくみ
- 3) 当院のアトピー性皮膚炎診療の実際
- 4) アトピー性皮膚炎のやればできる全身治療
- 5) 背部に広範囲の浸潤性紅斑を認めた1例
- 6) 市民公開講座「アトピー性皮膚炎とは－原因・新薬・スキンケア－」

# 眼科

## 1. 医師体制

役職名等	氏名
部長	太根 伸浩
非常勤	6名

## 2. 概要、特徴、特色

前年度から引き続き、外来は常勤医1名体制で、非常勤として週3回は帝京大学病院から派遣医師が担当しています。診療内容が多岐にわたるため 基本的な一般検査一式だけでなく、OCT・エコーなどの画像診断や各種血液検査も併用し、幅広い眼科全般の診察（角膜疾患、白内障、緑内障、糖尿病網膜症・加齢黄斑変性症・RVOなど網膜疾患）に対応しています。

特に専門である緑内障に関しては、より詳細な診療を行っています。また神経眼科や頭頸部疾患の境界領域に対しても、脳外科・耳鼻咽喉科などと連携し、CT・MRIなどの画像診断を通じて、可及的速やかに対応できるようにしています。

その他の全身疾患に関しても、他科と積極的に連携し、早期発見・早期治療を目指しています。当院で対応が難しい各疾患に対しては、それぞれの専門医が在籍の各連携施設にご紹介いたします。

## 3. 診療実績

### (1) 外来診療

月・水曜日は2診療体制、その他は1診療体制で外来診療を行っています。午後は視野など含め検査やレーザー治療などを中心に行っています。

### (2) 外来患者数 (2023年1月～2023年12月)

実患者数	のべ患者数
2,496人	7,317人

### (3) 手術 (観血的)

毎週月・水曜日 (午後のみ) に手術を行っています。白内障・緑内障が中心ですが、引き続き抗 VEGF 抗体硝子体注射も行っています。特に緑内障に関しては、最近、注目されてきている「より負担の少ない最小侵襲緑内障手術 (MIGS)」も積極的に施行しています。

規模的制約があるため、角膜 (内皮) 移植や硝子体手術などの、より専門的で高度な設備が必要なケースは、各疾患の専門医が在籍している連携機関 (大学病院など)

にご紹介しています。

コロナ禍のため、手術の延期・中止が多数ありましたが、状況は改善してきました。手術やレーザー機器の老朽化により新規購入し、実施可能になりました。

術式	症例数 (のべ)
白内障	37件
緑内障	6件
硝子体注射	89件

## 4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

スタッフを含め、東京都・埼玉県など近隣の教育・研修会などに積極的に参加しています。

# 耳鼻咽喉科

## 1. 医師体制

役職名等	氏名
部長	堤内 亮博
非常勤医	20名程度

## 2. 概要

2023年3月末に前任の越智篤先生が退職され、2023年4月より現職の堤内亮博が赴任しました。当科は長年外来中心の診療体制でしたが、前任者が診療体制の整備に尽力し、入院での全身麻酔下手術もできるようになりました。“開業医では対応しきれないが高度医療機関を受診するほどではない方が、お住まいの地域内で必要十分な治療を受けられるような診療を提供すること”を、当科のコンセプトとしております。頭頸部悪性腫瘍の大手術や嚥下改善手術、一部の音声改善手術などの特殊な手術を除いた耳鼻咽喉科領域の手術全般に対応するとともに、部長のサブスペシャリティとしてやや高度な耳科手術にも対応しております。

2023年8月のふれあい生協病院開院に伴い、外来診療については2診それぞれ完全に別ブースで診療できるようになり、電子スコープや顕微鏡も2診で共有ではなく各ブースに用意してもらいましたので、患者のプライベートに配慮した診療が行えるようになったと思います(2024年7月以降は3診体制)。ただ、前任者時代より受診患者数が増加の一途で、無制限に受けることが困難となってしまったため、2024年1月より完全予約制を導入しました。必ず当日枠を用意して、当日予約外患者を全く診ないということにはならないようにしておりますし、鼻出血などの救急患者や紹介状を持参したウォークイン患者は多少お待たせしてしまいますが当日診るようにしています。

## 3. 診療実績

前任時代から継続して東京大学耳鼻咽喉科医局から毎日1-2名の医師を派遣していただき、月曜日から土曜日まで午前中は常時2診体制で外来を行いつつ、月曜日午後、水曜日午前と少なめではありますが手術を行っております(2024年8月以降は水曜日全日予定)。火曜日午後にはエコーガイド下細胞診(院内の甲状腺内科や地域の病院の内科からの依頼が増加中)を行うとともに、地域の補聴器店と連携して補聴器外来も行っています。

水曜日・木曜日の午後には声帯内コラーゲン注入術やトラフェルミン浸潤スポンジによる鼓膜穿孔閉鎖術などの外来処置・手術を積極的に行うようにしています。

領域	領域別件数	術式	件数
耳	76	先天性耳瘻管摘出術	3
		鼓膜切開術(外来)	16
		鼓膜チューブ挿入術	14
		鼓膜チューブ挿入術(外来)	12
		鼓膜穿孔閉鎖術(外来)	12
		鼓膜形成術	3
		鼓室形成術	9
		乳突削開術	7
鼻	55	内視鏡下鼻・副鼻腔手術	14
		鼻中隔矯正術	17
		下鼻甲介切除術	11
		鼻骨骨折修復術(外来)	1
		鼻腔粘膜焼灼術(外来)	12
口腔咽頭	47	口蓋扁桃摘出術	23
		アデノイド切除術	12
		軟口蓋形成手術	2
		下咽頭腫瘍摘出術	1
		唾石摘出術(外来)	1
		組織試験採取(口腔、含小唾液腺生検)	8
喉頭気管	15	気管切開術	3
		喉頭微細手術	3
		喉頭蓋嚢腫摘出術	1
		声帯内コラーゲン注入術(外来)	8
頸部	7	甲状腺部分切除	3
		頸嚢摘出術	1
		深頸部膿瘍切開術	1
		リンパ節摘出術	2
合計	200	*両側同時施行は1例とカウント	

外来延べ患者数	
2023年4月	666
2023年5月	838
2023年6月	835
2023年7月	645
2023年8月	808
2023年9月	742
2023年10月	782
2023年11月	765
2023年12月	788
2024年1月	741
2024年2月	903
2024年3月	866
合計	9,379

KCODE	手術名	件数
K0021	デブリードマン (100●未満)	1
K287	先天性耳瘻管摘出術	1
K305	乳突削開術	5
K309	鼓膜 (排液、換気) チューブ挿入術	11
K311	鼓膜穿孔閉鎖術 (一連につき)	2
K318	鼓膜形成手術	3
K3191	鼓室形成手術 (耳小骨温存術)	5
K3192	鼓室形成手術 (耳小骨再建術)	3
K3381	鼻甲介切除術 (高周波電気凝固法によるもの)	1
K340-4	内視鏡下鼻・副鼻腔手術 2型 (副鼻腔単洞手術)	1
K340-5	内視鏡下鼻・副鼻腔手術 3型 (選択的 (複数洞) 副鼻腔手術)	9
K340-6	内視鏡下鼻・副鼻腔手術 4型 (汎副鼻腔手術)	3
K344	経鼻腔的翼突管神経切除術	1
K347	鼻中隔矯正術	3
K347-3	内視鏡下鼻中隔手術 1型 (骨、軟骨手術)	9
K347-5	内視鏡下鼻腔手術 1型 (下鼻甲介手術)	5
K368	扁桃周囲膿瘍切開術	3
K370	アデノイド切除術	12
K3731	下咽頭腫瘍摘出術 (経口腔によるもの)	1
K3772	口蓋扁桃手術 (摘出)	17
K387	喉頭粘膜焼灼術 (直達鏡によるもの)	1
K3892	声帯ポリープ切除術 (直達喉頭鏡によるもの)	2
K392-2	喉頭蓋嚢腫摘出術	2
K396	気管切開孔閉鎖術	1
K407-2	軟口蓋形成手術	2
K4611	甲状腺部分切除術、甲状腺腫摘出術 (片葉のみの場合)	1
K4611	甲状腺部分切除術 (片葉のみの場合)	1
K4632	甲状腺悪性腫瘍手術 (切除) (頸部外側区域郭清を伴うもの)	1
K6072	血管結紮術 (その他のもの)	1
K6261	リンパ節摘出術 (長径 3センチメートル未満)	3
	総計	111

#### 4. 学術教育活動

医療生協さいたまの組合員からの依頼で勉強会での講演を複数回行ったりと、地域の耳鼻咽喉科医会の集談会で座長を務めたりしました。

前任者時代から引き続き、初期研修医の受け入れ (救急ローテート中に週 1回×4週) を行い、耳鼻咽喉科外来に来院する患者の多様さや、他科でも知っておいていただきたい耳鼻咽喉科の基本事項などを教えるよう心がけております。

部長は耳鼻咽喉科専門研修の研修指導医の資格を持っており、当科単独で研修プログラムは組みませんが、機関研修施設と連携して耳鼻咽喉科専門研修を行うことができます。

## 精神科

### 1. 医師体制

役職名等	氏名
部長	雪田 慎二
	荻野マリエ

※他科と重複している場合があります

### 2. 概要、特徴、特色

埼玉協同病院の精神科は1986年に開設されました。当初は精神科非常勤医師 1名の体制で始まり、1993年からは常勤化され、30年が経過しました。現在は常勤医師 2名の体制で診療を行っています。

長らく日本の精神医療は、単科精神病院での入院治療を中心に展開されてきました。しかし、1970年代以降は地域の中で生活しながら治療を受けることが重要視されるようになり、現在は、地域の中に数多くの精神科クリニックが開設され、以前と比べて精神科医療は数居の低い存在となっています。一方で、総合病院における精神科医療は大きく広がることはなく、総合病院精神科の必要性が周知されつつある現在でも、常勤医師が複数名所属する病院は非常に少ないのが現状です。

当院は総合病院に開設された精神病床を持たない精神科として以下のような特徴をもった医療を展開しています。

まず第一に、当院が地域の第一線の医療機関であることから、高齢者から若い方 (概ね高校生以上) まで幅広い年齢層の患者を受け入れています。精神科入院医療を必要とするような重症例は受け入れることはできませんが、うつ病、不安障害、アルコール性依存症、認知症、慢性期の統合失調症など幅広い疾患を受け入れています。

第二には、身体疾患の治療をしながら精神科医療を提供することも特徴です。特に高齢期には身体疾患に加え、認知症やうつ状態の合併も多く、こころと体の問題を総合的に診ていくことで質の高い医療が提供できます。

第三には、最近では出産子育ての過程で精神的に不安定となる方や、あるいは精神疾患をもともと抱える中で出産子育てをする方も増えてきており、産婦人科、小児科などとも連携をとりながら家族全体の生活を支援していくことも大切な活動となっています。

前記のような特徴を生かし発展させるために、地域住民、他の医療機関、行政、地域の福祉施設などとの連携を強める活動も行っています。

### 3. 診療実績

#### (1) 外来診療

- ①再来：月曜日～金曜日、1-2診体制、実患者数888人、外来延べ患者数 6,884人
- ②新患：月曜日、2人/週、実患者数110人  
(院内からの紹介に限る)
- ③被ばく相談外来：第1火曜日、放射線被ばくによる健康問題の相談援助

#### (2) 精神科デイケア：月曜日～金曜日、登録者数44人、延べ利用者数2,043人

#### (3) 病棟診療

- ①他科の入院患者への精神科医療の提供。他職種によるチーム活動。
  - 1) 緩和ケアチーム (180頁参照)
  - 2) 認知症ケアチーム (186頁参照)
  - 3) 精神科リエゾンコンサルテーションチーム (188頁参照)
- ②緩和ケア医療 (病棟スタッフとして診療)

### 4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

- (1) 精神科多職種カンファレンス 毎週月曜日
- (2) 精神科抄読会 毎週木曜日または金曜日
- (3) 講演活動等

ひかり協会 「緩和医療の基本的な考え方～在宅療養を中心に～」

平和のための埼玉の戦争展 「感染症と戦争・軍隊を考える②～性感染症から見た軍隊～」

医療・ケアネット県南 「コロナ禍のもとで緩和医療のあり方を見直す」

## 麻酔科

### 1. 医師体制

役職名等	氏名
主任部長	西川 毅
部長	畔柳 綾
副部長	黒羽根 朋子
技術部長	岩切 裕子
医長	金子 吾朗

2020年度より日本専門医機構の基幹病院に認定され、研修医の受入を行っています。

### 2. 概要、特徴、特色

#### (1) 麻酔科外来

2006年5月より始まった外来は、術前診察目的で月曜日と金曜日と土曜日の週3回、F館2階で行っています。3診中2診で看護師の問診を行い、1診で医師の診察を行っています。2023年度の麻酔科外来総患者数は1,841人でした。

#### (2) 手術件数

2023年度の総手術件数は2,607件です。そのうち麻酔科管理は2,117件(82.6%)でした。現在は全身麻酔管理だけでなく、エコーを用いた各種神経ブロック麻酔も行っています。診療科別手術件数は次のとおりとなっています。

診療科	件数
外科	622
整形外科	1,469
産婦人科	283
泌尿器科+内科	36
眼科	114
耳鼻咽喉科	83
計	2,607

### 3. 学術・研究、講演、研修会等の記録

#### (1) 学会・研究会等の発表 (192頁参照)

自動薬物投与システムの運用に際しての留意事項  
(日本臨床麻酔学会誌)

# ペインクリニック

## 1. 医師体制

役職名等	氏名
部長	畔柳 綾
医長	金子 吾朗

## 2. 概要、特徴、特色

2020年4月からは毎週木曜日に診察を行なっています。三叉神経痛、帯状疱疹後神経痛、腰下肢痛、肩甲骨痛など慢性痛に対して、エコーガイド下神経ブロック、透視下神経ブロック、高周波熱凝固術など、腋窩多汗症に対してボトックス治療も行っています。フットケア治療の一つとして、脊髄刺激療法を始めました。対象は、末梢血管障害による痛み、脊椎・脊髄疾患による痛み、その他神経障害性疼痛になります。

また、がん疼痛に対して、腹腔神経叢ブロックや、フェノールサドルブロック、脊髄鎮痛などの処置も行っています。治療内容によっては、入院治療も行っております。

### (1) 外来患者数 (2023年4月～2024年3月)

病名	患者数
帯状疱疹後神経痛	484
腰部脊柱管狭窄症	386
三叉神経痛	42
がん疼痛	4
肩関節痛	50
頸肩腕症候群	13
頸椎症	204
閉塞性動脈硬化症	11
その他	482

### (2) 神経ブロック別のべ件数

星状神経節ブロック	199
硬膜外ブロック	311
三叉神経ブロック (注1)	21
がんの神経ブロック	15
肋間神経ブロック	24
神経根ブロック	61
その他	343

(注1) 眼窩上、眼窩下、おとがい、ガッセル神経節ブロック 5件)

### (3) 脊髄刺激療法 10件

## 3. 学術・研究、講演、研修会等の記録

### (1) 学会・研究会等の発表

肘部管症候群に対する腱移行術後の複合性局所疼痛症候群に脊髄電極刺激療法が有効であった一例 (第57回日本ペインクリニック学会学術集会)

当院における化学療法誘発性末梢神経障害患者に対するデュロキセチン投与の検討 (第57回日本ペインクリニック学会学術総会)

当院の脊髄刺激療法患者に対する臨床工学技士の関り (第4回ペインクリニック北関東甲信越支部学術集会)

### (2) 講演

ペインクリニックでみる神経障害性疼痛～帯状疱疹痛を残さないために～

当院ペインクリニックで診る神経障害性疼痛

### (3) 論文

当院における帯状疱疹関連痛の疼痛改善に影響を与える要因の後ろ向き研究 (日本ペインクリニック学会誌)

難治性の会陰部・肛門部患者に対する神経ブロック治療法の検討 (日本慢性疼痛学会機関誌)

Effective Sympathetic nerve block for chemo therapy induced peripheral neuropathy : a case report (Oxford medical case report)



# 病理診断科

## 1. 医師体制

役職名等	氏名
部長	石津 英喜

## 2. 概要、特徴、特色

難しい症例は東京医科歯科大学より週1回指導をしていただき、慎重に最終診断をしております。内視鏡の病理診断については日本消化器内視鏡学会専門医にも診断に加わっていただき精度の向上に努めております。

細胞診断では日本臨床細胞学会で認定を受けた4名の細胞検査士とともに診断を行っています。特に婦人科細胞診では、産婦人科臨床医でもある細胞診専門医との緊密な協力の下に診断にあたっています。

当院の特徴として病理診断管理加算を算定するために病理診断以外の勤務を制限する体制はとっておりません。病理専門医であっても外来、内視鏡検査などをしながら病理診断管理加算以上の貢献ができる勤務体制や、病理診断をしながら臨床能力も高め続けることのできる病理医の養成に努めています。

## 3. 学術・研究、講演、研修会等の記録

### (1) 認定施設

日本病理学会研修認定施設 B

日本臨床細胞学会教育研修施設

日本臨床細胞学会認定施設

### (2) 症例検討

病理科内での症例検討会 週1回

消化器カンファレンス 週1回

CPC（臨床病理検討会）医局主催で月1回

乳腺画像カンファレンス 週1回

乳腺がんボード 週1回

消化器がんボード 週1回

## 4. 診療実績

### (1) 検体数の推移

(2023年はふれあい生協病院分も含む)

	解剖数	生検数	細胞診数
2017年	8	5,930	6,436
2018年	14	5,551	6,266
2019年	11	5,145	6,236
2020年	5	4,634	6,650
2021年	7	4,851	6,768
2022年	3	4,509	6,110
2023年	4	4,562	5,811

### (2) 細胞診（65頁参照）

### (3) 法人内院所別統計

## 放射線科

### 1. 医師体制

役職名等	氏名
部長	吉田 英夫
技術部長	松本 俊一
医長	岡崎 百子

### 2. 概要、特徴、特色

常勤医3名および非常勤医師で、CT、MRIを中心とした画像診断、読影を行っています。

画像診断管理料Ⅰ、画像診断管理料Ⅱ、遠隔画像診断Ⅱ等を加算しています。各診療科、各主治医との連携を密に適正な検査および迅速な診断を行っています。

### 3. 学術・研究、講演、研修会等の記録

定期的に研修医・若い放射線技師に対して、CT画像、MRI画像の診断をはじめ、放射線の基本的なことを教育・研修しています。

## 緩和ケア内科

### 1. 医師体制

役職名等	氏名
病棟医長	雪田 慎二
部長	佐野 広美
非常勤	有田 圭介

### 2. 診療科の特徴

緩和ケア内科は以下3つの診療機能で構成されています。

#### (1) 緩和ケア病棟

がん終末期による心身の苦痛を抱えた患者が入院する病棟です。症状の緩和だけでなく、がんとの闘いにより失ってしまった自分らしさを少しでも取り戻すお手伝いします。死に向き合うこと、常に希望を失わないことなど、人それぞれの気持ちに多職種スタッフが寄り添うケアをしています。患者・家族からの希望があれば、どのような病状でも自宅への退院を支援します。

#### (2) 緩和ケアチーム

がん診療のどの時期にあっても、また、がん以外の疾患においても患者の全人的苦痛対し多職種の専門性を活かしながらチームとして治療やケアの実践・助言を行います。また、院内の緩和ケア水準の維持向上に努める活動もしています。

#### (3) 緩和ケア外来

積極的抗がん治療が終了した患者への緩和ケア提供を目的に、院内外から紹介をいただいています。心身の症状マネジメント、緩和ケア病棟や在宅医療など病状悪化時の医療体制の準備などを相談させていただいています。

### 3. 活動と診療実績

当院は日本緩和医療学会の認定研修施設であり、緩和ケア病棟は緩和ケア病棟入院料1の要件を、緩和ケアチームは緩和ケア診療加算の要件を、それぞれ満たす高水準な緩和ケア診療提供体制を整えています。

#### (1) 緩和ケア病棟

今年度は8月に新病棟への移動という大きなイベントがありましたが、無事新たな病棟での運用が始まっています。20床全室個室、ベッドのままでも出られる広いテラスがあり、人生の最終段階にある方が安心して過ごしていただける環境です。新病棟を記念して動画を作成しホームページに掲載しています。

病棟運用は常時最低18床以上の稼働を目標にしています。実績としては期間中の退院患者263名（前年291）、自宅退院52名（同79）、平均在院日数26.1日（同21.5日）でした。前年と比較して入院の長期化を容認した運用の結果となっています。

毎年実施している地域連携カンファレンスは、6月と2月にコロナ禍後初めて対面で開催し、地域医療機関の方々と活発な意見交換ができました。

(2) 緩和ケアチーム

52件の依頼があり、昨年より14件増加しました。疾患はがん47件、非がん5件でした。定期活動は毎週木曜日の午後ですが、疼痛や呼吸困難などの悪化による臨時の相談にもできるだけ当日緊急対応しています。

ホスピス緩和ケア週間のイベントとして10月5日に職員を対象に「もしバナゲーム」を開催、多職種の方に参加していただき、ゲームをしながらACPについて学ぶ機会になりました。

(3) 緩和ケア外来

25名の初診患者があり、紹介元は院内13名、他施設12名でした。主には抗がん終了後で全身状態が維持されている患者の症状マネジメント、療養支援を行っています。適切なタイミングで訪問診療や緩和ケア病棟につながるようにしています。

4. 学術・研究、講演、研修会等の記録

(1) 学術・研究等の発表

区分 (番号)	氏名 (職種)	演題名	主催者 (開催日)	会場 (都道府県)
①学会・総会等	佐野 広美(医師)	緩和ケア病棟の入院受け入れを在宅医からの要請に応じた即日緊急入院から原則待機入院へと変更した後の病棟運用の評価	第28回日本緩和医療学会学術大会(2023年6月30日、7月1日)	神戸国際会議場(兵庫県)
①学会・総会等	佐野 広美(医師)	緩和ケア病棟におけるレスパイト入院が予定通りの退院にならない場合が多いことについての検討	第5回日本在宅医療連合学会大会(2023年6月24日、25日)	朱鷺メッセ(新潟県)
①学会総会等	雪田 慎二(医師)	コロナ禍のもとで緩和医療のあり方を見直す	日本在宅医療連合学会第5回地域フォーラム2023年9月9日	大宮ソニックスティ(埼玉県)
②医療活動交流集会、	佐野 広美(医師)	埼玉協同病院緩和ケア病棟のご紹介	川口市医師会 在宅緩和ケア充実支援勉強会2024年3月5日	フレンジア(埼玉県)

区分：①学会・総会等、②医療活動交流集会、③埼玉民医連学運交、④埼玉民医連看護学会、⑤埼玉民医連介護研  
会場：ZOOM

(2) 講演会活動・座長・リマークス等

講演日 (役割)	氏名 (職種)	講演名	主催者	会場 (都道府県)

役割：座長・リマークス等

(3) 著作・論文、寄稿等

区分 (番号)	題名	筆者 (主に○)	掲載誌

区分：①著作・論文、②寄稿

5. 資料

# 健康増進センター

## 1. 医師体制

役職名等	氏名
健診センター長	小池 昭夫
医長	照井 幸雄

※他科と重複している場合があります

## 2. 概要、特徴、特色

特定健診、保健指導、一般健康診断、事業所健診等、幅広く健康診断を行っています。

胸部X線検査は、すべての画像を二次読影まで行い、随時カンファレンスを行っています。また、埼玉県労働局の委託を受けて健康管理手帳所持者のじん肺・石綿健康診断を行っています。

- ・人間ドック健診指導医 1名
- ・マンモグラフィ検診施設・画像認定施設

## 3. 実績

(1) 健康診断数 (2023年4月～2024年3月)

健康づくり健診	202件
特定健診	3,526件
被ばく者健診	40件
国保ドック	2,093件
医療生協さいたまドック	719件
じん肺健診	272件
事業所健診	10,212件
協会けんぽ	8,673件
上記以外の健康診断	4,875件
合計	30,612件

## 4. 次年度に向けて

- (1) 質の向上及び精度管理をすすめます。
- (2) 受診者の要望に応えます。
- (3) 収益確保をめざします。
- (4) 業務の効率化をすすめます。
- (5) 健診後フォローの充実をすすめます。
- (6) じん肺・アスベスト外来の充実を図ります。